

中川一政と武者小路実篤

よみがえる 100 年前の扁額

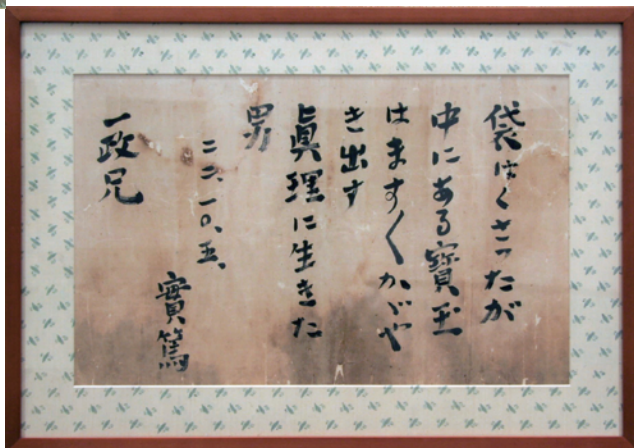
NAKAGAWA Kazumasa and MUSHAKOJI Saneatsu



中川一政《湯河原の山と福浦の海》Yugawara Mountains and Fukuura Sea 1964年

武者さん。
私はいちばん大切な時に
あなたにお逢いしたことを
第一の倖せに思っており
ます。千人万人の中で一番
逢いたい人に逢ったのです。

中川一政「弔辞」『随筆八十八』
1980年／講談社



武者小路実篤 扁額《真理に生きた男》The Man of Lived in truth 1922年

「（中川一政は）本物の画家になり切った。生命をかけた一人の画家が七十を越して益々元気に本当の画をかきつづけている事を知り、それをよき友人に持つ事を僕は仕合せに思っている。」

武者小路実篤「中川一政の近作」『中川一政近作展』
1966年／吉井画廊

この度、中川一政（1893-1991、文化勲章受章者）の旧居から、武者小路実篤書「真理に生きた男」が見つかりました。そして、一政の著書や親族の記憶から、その書は扁額として永く一政の画室に掛けられていたことが判りました。関東大震災や年月を経て損傷が著しい状態でしたが、修復を終え公開の運びとなりました。

「袋はくさったが／中にある寶玉／はますますかがや／き出す／真理に生きた／男／二二、一〇、五 實篤／一政兄」

武者小路実篤（1885-1976、文化勲章受章者）は、『白樺』によって大正期の文学界や美術界に大きな影響を与えましたが、一政もまたその影響を受けた一人です。一政は自身の人生に欠くことのできない実篤との出会いを「啐啄」と表現し、終生その恩愛に感謝と尊敬の念を持ち続け、折に触れ文章に認めています。実篤もまた、一政の画業の進展に心を寄せ、その人となりについて文を寄せています。本展では、一政愛蔵の実篤の書画を展示すると共に、二人の著作から互いへの思いを紹介します。

2022.9.3 (土)
- 11.27 (日)

開館時間 9:00~17:00

休館日 月曜日(但し9/19・10/10(月・祝日)開館、9/20・10/11(火)休館)

入館料 大人200円 高校生100円(20名以上の団体は半額)

中学生以下及び障がい者手帳をご提示の方とその介護者1名は無料

白山市立松任中川一政記念美術館

〒924-0888 石川県白山市旭町61-1 電話 076-275-7532 (北陸新幹線金沢駅からJR北陸線で10分 松任駅南口横)

Closed: on Mondays. Access: 1 min. on foot from JR Matto Sta. South Exit. (10 min. on JR Hokuriku Line from JR Kanazawa Station to JR Matto Station.)